

令和2年度 特色ある道徳教育推進校（心の教育推進キャンペーン実施校）
市川市立下貝塚中学校

研究主題 主体的に学び考え よりよく生きる生徒を育む授業づくり
～各教科の特質を生かした、すべての学校職員が関わる道徳教育の実践～

取組1 「考え、議論する」道徳授業の工夫

工夫 1 「聴く姿勢を育む」授業実践

地域支援者と生徒の交流会 詳しくは次ページ参照

- 学年道徳、全校道徳、合同道徳（2クラスで行う）、学校支援実践講座の活用 **全教員が参加**

「クラスの枠を超えた人たちや地域の方との交流を通して、新しい考え方やモノの見方について知り、生徒自身の考察を深める。」

- ローテーション道徳、ミニローテーション採用

学年全体で

副担任や隣のクラスと

「様々な指導者の道徳科の授業で学ぶことで、新たな見方として生徒の耳を傾ける。」



体育館で行う学年道徳



学年で意見交流

- ペアトークと道徳学習のルールづくり

「道徳の時間に、間違いはない。他者を傷つける行為以外の発表はすべて正解であり価値がある。自分の意見を真摯に聞いてもらうために、まず自分が発表を聴くことを徹底。」

工夫 2 授業実践に向けての工夫

- 道徳部会による展開略案の活用 **各教科から見た展開例**

「カリキュラムマネジメントの視点から他教科・他の教育活動とのつながりや関連付け、教員間で展開例についての意見交換を促す。」

- 道徳コーナーの設置 **共有スペース 校内ネットワーク**

「全教員が、道徳科の授業にスムーズに取り掛かれるように、道徳実践集や参考文献、DVDなどを集める。」

- 導入 ①道徳のルールを確認 『他人を傷つける・ウケ狙い以外の発言なら間違いはない』
発問1 ②発問の意見を確認したい！ ペアトークで各クラスから発表してもらう
※「構構」だけでなく出来るだけ具体的に引き出せるように
「インスタ・LINE・ツイッター」便利だから、早いから、絵文字がかっこいい
- 鑑賞 SNSにはリスクもあることを確認してからDVD「手のひらの小さな世界」を鑑賞
※異議意見はあるとありますが、「長年続いているシリーズ」では止めるのが無駄かと感じます
発問2 『主人公の女の子・結衣がとってしまった「間違っただ行動」は可処分でしょうか？
いくつでも答えてください。また、理由についても答えてください』
ポートフォリオ右側に書いてみる。いくつでもOK → 4人組で意見交換 → ガンガン発表
※「かくし隠り」「無断アップロード」などを具体的に引き出せるように
※「音信もかくく」というメッセージを送った「野郎の盗み顔」 犯罪、本人の許可なし
- 中心発問 『結衣はどんな思いで、毎日に座って巻を見ているでしょう。』
このあと、音信にどんな方法でどんな言葉をかけてみましょう？
☆生徒の答えに対して『それはどうして？』と切り返しができることベスト
※ウケ狙いにならないこと ※ポートフォリオ右側に記入



道徳コーナー

工夫 3 よりよい評価の方法

- 学級通信 道徳通信の活用

「各授業における生徒意見の可視化および保護者とのコミュニケーション、家庭での道徳的価値の理解の再深化」

- 評価ツールを利用した年間3回の所見作成「全校統一のツール(道徳ポートフォリオ)」を活用



クラスの意見
自分の短所だけでなく、
長所も見つめることが
大切だと分かりました。

ポートフォリオから

●最初の自分の考え

自分のために何かしてくれた時、お願いする時に礼をする。

●印象に残った友達の考え

礼に始まり、礼に終わる。心を込めることこそ大事な礼。

●授業後の自分の考え

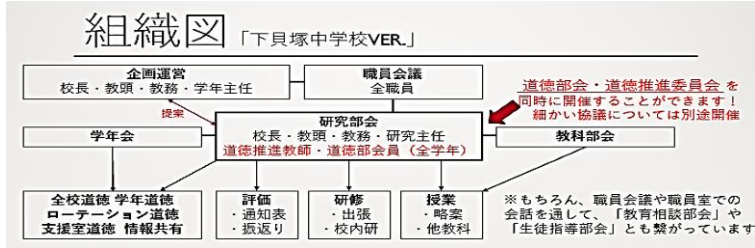
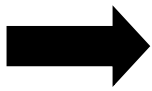
何となくではなく、心からの気持ちを込めることが大事だと分かった。時と場合を考え、敬意と謙虚さを忘れずにいたい。

取組2 学校全体で取り組む道徳教育の組織作りと地域連携

工夫1 研究部会に道徳部会を組み込み、「課題の共有」と「各分掌との連携強化」

○ 組織図 全教育活動と連携

各行事とのつながり
各学年とのつながり
各教科とのつながり
教科・分掌の特質を生かしやすい組織づくり



- 各部門協力しての別業作成と活用および行事との関連付けが容易になった。
- 分掌会議・教科部会を通じた道徳的価値・内容項目の関連付け 各教科の特質を生かす。

工夫2 多面的・多角的な授業

○ 「コロナ休校期間中の全校統一資料による道徳科授業ロレンゾの友達」

はじめに
道徳の時間には「間違」はありません。いろんなことを考えて、自分なりの意見を持ち、自由に想像をたくませてください。間違には「間違」はないので、ただし、他人を傷つけるような発言は控えようとしてください。まわりの人達の考えを思い、また、「間違」ではない大切な意見なのですから、ぜひとも、ご家庭の保護者の方や、兄弟、友達(オンラインなど)と積極的に意見交換してみてください。きっと自分とは違う考え方や価値観に気づくことができますはずですよ。
1. あなたにとって「友達」とはどんな存在ですか？ 思いっきり書いてみてください。

2. 身近な人と「友達」とはどんな存在か、意見交換してみてください。

3. 道徳プリント2【ロレンゾの友達】を読んでみてください。

4. あなたが【ロレンゾの友達】に出てる登場人物から、アッドレ・サイバユ・ニコライ 3人の内、誰と同じような行動をとりましたか？ 名前を導いて、その理由も教えてください。

アッドレ「ぼくは、お金を持たせて、だまされて迷わされてやる」。

サイバユ「自分をすすめる。本人が納得しないなら、迷わしてやる」。

ニコライ「自分をすすめる。納得したら一緒につきまとうけど、だめだったら警察に知らせる」。

同じ考えの人に○をつけよう 理由を教えてください。書いてみよう！

生徒意見
母と考えが同じだったことに驚いた。自分よりまず相手のことを考えられる友達でありたい。

○ 「副担任の先生や栄養士の先生による道徳科授業」(B-6 思いやり、感謝)



栄養士による授業「食の向こう側」
生徒意見：今まで残してしまった食べ物に謝りたいと思った。きびなご一品だけで、たくさんの人が関わっていてびっくりした。

工夫3 地域の方との学び

○ 「学校支援実践講座」の活用

生活体験や社会体験が乏しくなっている子どもたちに対し、地域の方と豊かな関わり合いを通して、傾聴の姿勢を学び、自分と他者を認め合う機会を提供し、学校における「いじめの未然防止」を図ることを目的として実施している。

※千葉大学教育学部藤川大祐教授に提供いただいた架空事例をもとに、市川市教育委員会学校地域連携推進課が作成した学習プログラムを使って地域支援者と生徒が交流を行うもの。



学校支援実践講座の一場面

主な成果と課題

- 「聴く姿勢」を充実させることで生徒たちが他者の意見や考えに耳を傾け尊重する場面が見られた。それにより自身の意見をより多面的・多角的に捉え直し、深めることができるようになった。
- 全職員が道徳教育に対して理解し、協力して取り組む機会が増え、道徳科の確実な「量的確保」が可能となり、「様々な特質を生かした道徳教育」を実践する機会が充実した。
- 保護者や地域の方との積極的な交流や情報配信が、生徒たちの教育機会の充実に還元できた。
- 「量的確保」克服後の、各道徳教育の機会における「質的向上」が求められる。
- 短期的な解決や改革として終わらせることなく、今後10年間にわたる継続性をもたせ、教職員の入替わりがあっても揺るがない体制や組織づくりを進める必要がある。

授業実践事例

中学校 第2学年 道徳科学習指導案

令和元年11月8日(金)

1 主題名

寛容の心をもって B(9) 相互理解、寛容 (県の視点「支え合う喜び」)
「地域支援者とともに考えるSNSでのいじめ・仲間はずれ」

2 教材名

DVD「新・携帯ネット社会の落とし穴」(NHKエンタープライズ)
「無料通話アプリが原因に?いじめと仲間はずれ」

3 ねらい

学年全体でお互いに相手の立場を尊重し思いやる心について理解し、寛容の心をもって謙虚に他者から学ぶことができる道徳的態度を育む。

4 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

「いじめ」の未然防止と地域支援者による学校支援活動の活性化をねらいとした、市川市教育委員会学校地域連携推進課が主催する交流会を通して、事例をもとに、各学級担任と地域支援者の連携によって、子供たちに、自分と異なる他者や意見への「寛容さ」を身につけさせる機会とする。また、普段は自分の意見や感情を言葉で上手く表現できない子供たちを、多くの大人たちの手でサポートし、積極的な意見交換に参加させ、自己肯定感を高めるとともに、話し合いを通して新しい気付きや価値観について、クラス全体で共有化を図る。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

男子103名、女子97名の計200名6学級からなる学年であり、穏やかで思いやりのある生徒が多い。積極的な行事への参加を通じて、級友のみならず教職員とも厚い信頼関係を築くことができているが、他者の考えや立場を尊重してより調和した生活をおくるには、さらにお互いを理解し寛容の心をもって謙虚に学ぶ必要がある。日々の道徳科の授業において、他者の意見を聞く姿勢づくりからはじめ、男女問わずお互いに意見交換が出来るようになってきた。学年道徳やローテーション道徳、地域指導者による道徳学習など、様々な経験を通して「他者の意見に耳を傾け、自分とは違う意見や考えを認め、尊重する心」が養われつつある。2度目となる地域支援者の方々との道徳科授業での意見交換を通して、自身の意見を多面的・多角的に捉え、考えを深め、日常生活での周囲に対する配慮、思いやり、感謝、自他を尊重する心を養いたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、小学校時代から仲良しの4人組が、スマートフォンアプリがきっかけで仲間はずれをするというストーリーから、ねらいに迫るものである。誰の身にも起こり得る比較的身近な題材をテーマに、地域支援者の方々のお力を借りて、生徒たちの等身大の意見や本音を引き出して意見交換を行い、自身の考えを多面的・多角的に捉えさせメタ認知を促したい。

5 展開 (学年道徳・2時間展開)

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	指導上の留意点 評価(☆)
導入 (5)	○「今日は地域の皆さんと一緒に『携帯電話の使い方から人間関係について考えよう』というテーマで話し合いを行います」	・SNSの内容かな ・どんな人と話ができるのだろう。	・道徳の授業に間違いはないことを確認しておき、積極的な意見交換を促す。
展開 (70)	体育館でDVD教材「無料通話アプリが原因に?いじめとなかまはずれ」の視聴		・地域支援者の方も一緒に視聴 ・地域支援者参加は事前に伝達 ・一人ずつ簡単な自己紹介

<p>前段 (40)</p>	<p>⇒ 視聴後は、各教室へ移動 映像のあらすじを確認 『携帯電話の使い方から人間関係 について考えよう』というテーマを 再確認する。 ○「ドラマを見て考えたことをまと め、整理してください」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教室に戻り、各支援者を紹介 ・各班に1名ずつ入る。 ・ドラマ内容を振り返る「あらす じ」メモを配布 5分 ・全員が書けるよう支援する。 ・地域支援者は教える立場に立つ のではなく、生徒たちの意見を 傾聴し一緒に考える ・生徒たちの発言には受容的、共 感的態度で接する。 ・指導者は机間指導を行い、生徒 たちの様子を観察し、積極的な 話し合いになるよう支援と声か かけをする。 ・板書をもとに指導者が振り返り ☆相互理解、寛容について、自分 との関わりで多面的・多角的に 考えている。 ・内容について各班1～2分で 学級全体に報告
<p>後段 (30)</p>	<p>地域支援者を交えて、各班で15 分間の話し合いを行う。 全生徒の発表と意見交換</p> <p>○「各班での話し合いの内容を地域 の方から発表してください」 発表の振り返りを行う。</p> <p>各班で15分間の話し合い</p> <p>各班から出た意見をもとに 再度10分間の話し合い</p> <p>意見を踏まえた話し合い</p> <p>○「各班での話し合いの内容を地域 の方から発表してください」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嘘がいけなかった。 ・お互い信頼してない。 ・正直に話をすべき。 ・仲間はずれは卑怯 ・付け足しがしたい。 ・さっきと違う。 ・あの班すごいね 	
<p>終末 振り返り (10) まとめ (15)</p>	<p>地域支援者全員の説話をいただく。 ○「今回の話し合いを通じて学んだ こと感じたこと気づいたことを感 想用紙に書いてください」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな話が聞けた。 ・もう一度やりたい。 ・いつもとは違う道德。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会を通して地域支援者が感 じた良さ、願い、思いを積極的 に伝える。

6 他の教育活動との関連

社会科公民分野、全校生徒参加の人権集会で関連付けを行い、さらに考えを深めさせる。

7 授業の様子



各教室の各班では、**地域支援者**が中心となって、笑顔とユーモアを交えながら、生徒たち一人一人の本音を引き出して議論する。

生徒感想 「たった1時間で親しく話せるようになり、どんなことを言っても優しく賛成などしてくれとても楽しかったです。いじめられたら大人に頼ってもいいかなと思いました。」

地域支援者感想 「昨年参加させていただいた時の2名の生徒さんと再会しました。ビックリです。楽しく会話させて頂きました。返信をすぐにしないとグチグチ言われて困ると話した女の子は、こちらの問いかけに、『ウンウン』とうなずいてくれていました。」